

令和2年度第1回日本一の健康長寿県構想高幡地域推進協議会 議事要旨

1 日 時 令和2年9月2日(水) 18:30~19:45

2 場 所 須崎市立市民文化会館 大会議室

3 出席者 ・協議会委員28名のうち26名が出席

・医療政策課3名 ・事務局10名

◆出席委員(敬称略)

○専門団体

田村 精平	《高岡郡医師会理事》
北川 康介	《高岡郡医師会副会長》
土居 詔人	《高岡地区歯科医師会会長》
瀧口 英寛	《薬剤師会高陵支部長》
浪上 静香	《高知県看護協会須崎・窪川地区支部長》

○保健医療福祉関係機関

岡村 理佐	《障害者支援施設》
諸隈 陽子	《精神科診療施設》
松岡 健夫	《高齢者福祉・介護施設》
安井 渉	《国保病院・診療所》
森畑 東洋一	《小児科診療施設》
中谷 卓也	《高幡広域社協連絡協議会》
中山 順子	《高知県介護支援専門員連絡協議会高幡ブロック》
松浦 永治	《高知県保険者協議会医療計画検討部会》

○地域組織団体・住民の代表

熊田 敬子	《須崎福祉保健所管内健康づくり婦人会連合会長》
戸梶 庄美	《須崎地区食生活改善推進協議会会長》
岩崎 良子	《くぼかわボランティア連絡協議会長》
山本 新一	《中土佐町民生児童委員協議会長》

○行政関係

森光 澄夫	《須崎市健康推進課長》
吉本 加津代	《須崎市長寿介護課長》
井上 幸一	《須崎市福祉事務所長》
山本 眞紀	《中土佐町健康福祉課長》
太田 寛代(明神 孝洋の代理)	《梶原町保健福祉課長》
下元 丈夫	《津野町介護福祉課長》
長森 伸一	《四万十町健康福祉課長》
三本 明子	《四万十町高齢者支援課長》
松本 忠史	《須崎福祉保健所長》

◆欠席委員（敬称略）

市川 利恵

《障害者支援施設》

北川 素

《高齢者医療施設》

議事等概要

- 1 開 会
- 2 須崎福祉保健所長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議 事

(1) 須崎福祉保健所の令和2年度重点目標

【事務局説明】

- ・須崎福祉保健所の令和2年度重点目標 資料 1-1、資料 1-2で説明
- ・新型コロナウイルスへの対応について（管内の状況） 資料 1-3 で報告
- ・新型コロナウイルスへの対応について（県内の状況） 医療政策課より当日資料で報告

【質疑、意見等】

◆田村会長 《高岡郡医師会理事》

高知県は高齢者の単身世帯数が全国平均より多く、独居老人が救急で運ばれることが非常に多いです。自分で起き上がることが難しいので、誰かが訪ねて来ない限り寝たきりのままの状態が続いていたというケースも多数あり、ヘルパーが訪ねたときには実は昨日から倒れていたというような事例も少なくないです。

あったかふれあいセンターやサロン等で高齢者に対するケアをすることも大切だと思いますが、そういったところに出かけて行けない方も多くと思います。そういう方に対するケアも非常に大事だと思いますので、独居の方に誰か必ず声をかけるというような体制を推進して欲しいなと資料を見ながら思いました。

資料 1-2の4ページの認知症施策を進めていくためには、認知症疾患医療センターである一陽病院と連携し、取り組んでいく必要があると思われます。取組を進めていく上で、実際に現場にいらっしゃる立場で、課題や今後の取組について諸限委員から何かご意見いただければと思います。

◆諸限委員 《精神科診療施設》

かかりつけ医を飛び越えて疾患センターに相談に来られる方がいます。安心感を与えるためにも、まずは、かかりつけ医にご相談の上で疾患医療センターを紹介していただくというのでお願いしたいです。身体疾患を持っている人がほとんどなので、正直、認知症の方全員を疾患医療センターで診るということはとても無理なので、地域のかかりつけ医にフォローしていただきたいと思ひますし、デイケアのスタッフやホームヘルパーから相談があったときには、

かかりつけ医に相談してみてくださいとお声をかけていただけたらと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なかなか進めることができていませんが、認知症疾患医療センターの役割である、かかりつけ医との連携した取組の1つとして、事例検討を通して地域の困りごと等を一緒に検討していただける勉強会を、少人数になるかとは思いますが開催できたらいいなと妄想を抱きつつもなかなか実現できていません。可能であれば、須崎方面・梶原方面・窪川方面と場所を変えて、どこか場所をお借りして、順番にお顔合わせも含めた会ができたらいいなと疾患医療センターのスタッフとも考えております。またお声がけさせていただきますのでそのときはどうぞよろしくお願いいたします。

◆田村会長

ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の影響下、家の中で閉じこもっているために認知症が悪化している方が増えているということもよく聞きます。

今後も取り組みを進めていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

資料 1-2 の 5 ページの妊娠期から乳幼児期の支援体制の強化のところでは梶原町及び津野町の新任保健師を対象にした母子事例アセスメント力向上のための事例勉強会を7月に開催され、また、日頃、母子保健コーディネーターの活動もされていると思いますが、具体的な取組内容をご報告いただきたいと思っております。

◆太田／明神委員代理 《梶原町保健福祉課長》

福祉保健所の方と一緒に母子のケース検討会を行っていただき、いろいろな視点・観察、必要な情報の収集などについてご助言をいただきました。梶原町は出生数もあまり多くないので地区によって保健師の母子事例への関わりにもばらつきがあります。母子事例検討を通して、「情報共有しながら母子事例に関われてすごくよかった」「今後活かしていけるようにしたい」と声があがっておりました。

今後も引き続き、こういった検討会をしていただけたらと思っております。

◆田村会長

ありがとうございました。

何かご意見やご質問はありませんか。

委員の皆様には、今後も引き続き福祉保健所の取組の推進にご協力をお願いしたいと思います。

## (2) 健康づくり推進部会の令和元年度活動報告及び令和2年度活動計画

### 【熊田委員報告】

- ・令和元年度健康づくり推進部会活動報告 資料2 で報告
- ・令和2年度健康づくり推進部会活動計画 資料2 で報告

### 【質疑、意見等】

#### ◆田村会長

四万十町は、昨年度から健康ステーション事業を開始しています。今年度は職域と連携して働きざかりの健康づくりとして、この健康ステーション事業を活用し、取り組んでいるところだとお聞きしています。

大変良い取組だと思います。四万十町健康福祉課の長森委員よりご紹介いただきたいと思えます。

#### ◆長森委員 《四万十町健康福祉課長》

四万十町では、昨年10月から、健康寿命の延伸、健康習慣の形成、介護給付利用料の削減を目的として、8000歩20分の中強度運動を行ってもらう健康づくりを中心とした健康ステーション事業に取り組んでいます。歩数の他に、運動強度(METs)を計れる身体活動量計を希望する町民の方に貸し出しをして、自身の歩数と運動強度を調べてもらっています。この8000歩20分の中強度運動はほとんどの生活習慣病を予防できるという実験結果もあるもので、現在、およそ300人ほどの町民の方に取り組んでいただいております。

高齢者につきましては、地域包括支援センターやあったかふれあいセンター、地域の体操グループで声をかけていただいて、順々に活動を増やしています。やはり一番の問題となるのは働き世代である青壮年層への普及が進んでいないことだったため、今年度は職域での健康を知るといことで福祉保健所と連携をして、今年の5月から11月までサンシャインしまんとハマヤ店に健康ステーション事業への協力をお願いしております。

今後も四万十町の事業所を中心として青壮年層の方への普及をしていき、少しでも身体活動量計の貸し出しを希望される方が増えていくことを願って進めております。

#### ◆田村会長

健康づくり推進部会におきましても、今後も職場の実態に合わせた健康づくりに取り組んでいただきまして、地域と職域の連携をさらに強化していただきたいと思いますので今後も取り組みの推進をよろしくお願いいたします。

## 5 閉 会